



SHIMODATE ROTARY CLUB WEEKLY REPORT 2020-21

第 02558号

発行日

令和2年12月9日

下館ロータリークラブ会報

Rotary International District 2820



国際R I 会長

ホルガー・クナーク

ロータリーは機会の扉を開く



筑波山と五行川

本日のプログラム

会員卓話 潮田武彦 会員

次週のプログラム

12月23日 クリスマス例会

会長／神山 芳子 副会長／早瀬 浩一 幹事／宮田 憲一 会長エレクト／潮田 武彦

例会 毎週水曜日 12:30 ダイヤモンドホール (〒308-0847 茨城県筑西市玉戸1053-4 ☎0296-28-8511)
ホームページ <http://www.shimodate-rc.gr.jp> Eメール shimodate@ri2820.jp



前例会報告 第2932回 2020/12/2(水)

会長挨拶 神山芳子会長

皆様、こんにちは！あちらこちらから、盛んにクリスマスソングを耳にするようになりました。“With コロナ”のなかで、何とか、上半期最終月間を迎えることが出来ました。本クラブをはじめ、衛星クラブ、ローターアクトクラブもZOOMを活用して毎月の例会を滞りなく、順調に開催できています。本当にありがたいことと痛感しています。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

また、先月のロータリー財団月間に際しましては、特別寄付のご協力をありがとうございます。引き続き、今月中はお受けいたします。どうぞよろしくお願い致します。さて、今月の重点目標は、「疾病予防と治療月間」です。皆様、ご存知の通り、わがクラブは、新井和雄ガバナーエレクトと国際奉仕 葉委員長の活躍でグローバル補助金を活用して大きな国際奉仕プロジェクトを実施しています。大変素晴らしいことです。お力添えとご活躍の程、ありがとうございます。追って、進捗状況を報告していただくことを楽しみにしています。さきほど、新井ガバナー年度の地区バッチをいただきましたので、早速、付けました。機会を見て活用していきましょう。

本日は年次総会です。クラブ細則に従い、会員の皆様へ潮田年度の役員理事のご紹介と承認を頂戴いたします。昨年度より、この年次総会時に上半期の会計報告が義務付けられました。折をみて、中間報告をさせていただきますので、ご了承ください。では、本日の例会もどうぞおたのしみください。

理事会報告 宮田憲一幹事

◇審議事項

- ① 1月のプログラムの変更について
3RC合同新年会の中止承認
- ② 2月・3月のプログラムについて
- ③ 会長ノミニーの決定承認 潮田武彦会員
- ④ 茨城新聞 新年広告掲載について
例年通り承認 22,000円

◇協議事項

県内新型コロナウイルス感染拡大による、今後

のクラブ運営について

◇報告事項

- ・ガバナーエレクト事務所より進捗
- ・12月ロータリーレート 1ドル=105円

幹事報告 宮田憲一幹事

○池田ガバナー事務所より

- ・奉仕プロジェクト・R財団合同研修セミナー延期のお知らせ 受理
- ・第2820地区財団ニュース10月号 受理
- ・今月のロータリーレート 105円
- ・財団室NEWS12月号 受理

○岩瀬RCより

- ・11月分のクラブ会報 受理
- ・12月の例会変更について 受理

年次総会開催

21-22潮田年度の役員・理事、下記の通り承認されました。

会 長	潮 田 武 彦
会 長 エレ ク ト	潮 田 武 彦
副 会 長	岩 崎 晴 男
幹 事	宮 田 憲 一
会 計	新 井 利 平
会 場 監 督	百 目 鬼 博 行
直 前 会 長	神 山 芳 子
職 業 奉 仕 委 員 長	永 盛 武
社 会 奉 仕 委 員 長	根 岸 千 聡
国 際 奉 仕 委 員 長	葉 章 二
青 少 年 奉 仕 委 員 長	神 山 芳 子
会 員 増 強	堀 江 勤
ロ ー タ リ ー 財 団	佐 藤 昭
副 幹 事	葉 章 二





新入会員卓話

篠原 崇邦 会員



あらためまして、常陽銀行 下館支店の篠原でございます。7月に入会させていただいてから、なかなか思うように例会に出席できなくて申し訳なく思っています。

そんな中、このような機会を頂戴いたしまして、恐縮しております。

ただ、先週、根岸さんの、若々しく、キラキラした楽しい卓話を聞かせていただきましたが、オジサンの私にはキラキラした話は出来ませんので・・・先に謝っておきます。

さて、何を話したら良いのか、いろいろ考えました。百目鬼大先輩を前に、銀行について語るほどの経験もございませんし、「新入会員卓話」ということですので、「篠原崇邦」という人間を、少しでも分かっていたできたく、今日は、自己紹介を兼ねて、①学生時代、②新入行員時代、そして、③外部出向時代、の3点について、当時のエピソードを交えながら、私が日頃から心掛けていることなどについて少しお話させていただきます。

まず、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は昭和44年8月5日生まれの51歳です。出身は？と聞かれたら「水戸です」と答えています。先祖代々茨城県人というわけではありません。両親は東京出身です。父が東海村の日本原子力研究所に就職したことが、茨城県とのご縁の始まりです。私が10歳の時に父が水戸に家を構え、それからずっと水戸ですので、水戸出身と言っている訳です。

私は、当時新設間もなかった、水戸の桜の牧という県立高校を卒業し、立教大学へ進みました。大学時代は、東京の世田谷区、用賀にあります「水戸塾」という県人寮のようなところで4

年間を過ごしました。1つ目の、「学生時代の話」は、この水戸塾での話です。

水戸塾は、水戸徳川家の援助により、明治40年に発足した、公益財団法人水戸育英会が運営する寄宿舎で、113年の歴史を有します。現在の総裁は水戸徳川家・第15代当主の徳川斉正様です。

OBには、有名人ですと映画監督の深作欣二さんがいらっしゃいます。また、私が大学生の時には日本の警察トップである、警視庁長官と警視総監が水戸塾の先輩後輩だ、という記事が日経新聞に掲載されていたことを良く覚えています。

もともと、茨城県出身の優秀な学生を、徳川家が支援して、世に送り出すことを目的とした育英会ですから、昭和前半のOB名簿を見ますと、東大とか国立大学の医学部など、高学歴の方ばかりが在籍されていました。

では、そんな由緒正しき寮に、なぜ、私のような者が入れたんだ、ということになりますが、私が入塾したのは昭和63年、世の中はバブル景気真っ只中でした。学生ですらハブリがいい時代に、当時の水戸塾の寮費は朝・晩2食付で、ナント2万5千円でした。私が4年生の時にいきなり2倍の5万円に値上げされたのですが、それから約30年間、今なお5万円の寮費を維持しています。

また、寮の部屋は、確か10年位前に全員個室になったと記憶していますが、私の頃は2年生までは「2人部屋」でした。ですから、バブル景気でしたし、裕福なご家庭の優秀な学生たちは、おそらく、このような寮を敬遠し、「一人暮らし」を選択されたんだと思います。その結果、私のような者でも入塾できたんだと、自分なりに解釈しています。そんなこともあったか、私がいた当時は、東大生も少しはいましたが、日体大、日大芸術学部、そして、寮から最も近い東京農大などなど、バラエティに富んでいて、色々なタイプの人達が暮らしていました。ただ、「学生自治」と「バンカラな風土」、この2つだけは、脈々と引き継がれていました。

水戸塾では、塾長を筆頭に、炊事管理、施設管理、情報管理、図書、会計、の5つの委員会が組織され、学生自治を行っています。



塾生たちは各委員会に所属して寮の自治に参加し、自分たちで生活の維持・向上に努めます。私自身、塾長もやりましたし、学生ながら小さな会社を運営しているような感覚もありましたので、社会に出てから役に立つことが沢山ありました。これだけ聞くと、ものすごく立派な素晴らしい寮に聞こえますが、もう一つの「バンカラな風土」が普通ではありませんでした。大学の体育会よりも厳しいんじゃないか？と思うほどのタテ社会でした。実は今、私の長男が水戸塾にお世話になっているのですが、私の頃と違って、今はとても品行方正のようです。

水戸塾で過ごした4年間でかなり鍛えられましたので、社会に出てからこれまで、幾多の困難にぶつかりましたが、普通の人に比べ、さほど動じることなもなく過ごしてきたのかもしれませんが。卒業以来、約30年、毎年欠かさず行っている同期会で、いつもそんな思い出話を花を咲かせています。

すっかり前置きが長くなってしまいましたが、4年間の水戸塾での生活の中で、今でも鮮明に覚えていて、そして今の仕事でも常に頭に置いていることがあります。それは私が塾長の時の出来事です。

水戸塾では年に一度、徳川総裁をはじめ、役員やOB、そして近所で日頃お世話になっている方々をお招きして、「塾祭」という、いわゆる寮祭を開催しています。学生のやることですから、中身はくだらなかったり、下品だったりするのですが、外部のお客様をお招きする意味で、寮の一大イベントでした。

ですから、会場の準備も大変です。しかし、私が塾長と申しまして、各委員会の委員長は所詮同級生ですから、私の意のままに動いてくれませんし、私も極端に強い指示・命令なども出来ません。そこで、手伝ってくれる数名の下級生と塾長自ら準備を進めていました。

ところが、私の不注意でガラス戸で自分の手の指を切ってしまい、病院に行かざるを得なくなりました。正直、会場設営が心配で病院どころではありませんでしたが、診察と手当てを終えた頃には、もう塾祭開始まで2～3時間しかなくなっており、「間に合わないかなあ…」と、諦めかけて寮へ戻りました。ところが、私は会

場を見て驚きます。ナント、会場が完璧に仕上がっていたのです。聞けば、私がケガをして病院へ行ったと聞いていた同級生の委員長連中が、「篠原も一生懸命やってたし、俺らでやるか！」と、下級生の委員も含めて相当な人数を動員し一気に仕上げたとのことでした。おかげで、お客様の評判も良く、「塾祭」は大成功に終わりました。

それ以来、仕事でも、また子育てにおいても、「男は黙って、自ら背中を見せる」ことをモットーにしています。

また、職場の仲間や家族を信頼し、感謝する気持ちも忘れません。その意味でも、また親子でお世話になっている水戸塾には、感謝しかありません。

そうこうして、私は何とか大学を卒業し、平成4年に常陽銀行に入行しました。最初に配属されたのは、高萩支店でした。2つ目の話は、「新入行員時代」の忘れられない思い出話です。

当時はまだ、規制金利下で、資金さえ集まれば銀行は黙って儲かる時代だったからかどうかは定かではありませんが、当時の支店長には、地域・銀行の中において、今よりはるかに高いステイタスがありました。ですから、新入行員が支店長と会話することなど、ほとんどありませんでした。

百目鬼大先輩の前で言うのもなんですが、当時の銀行は半沢直樹に出てくる、「土下座」とか、「詫びろ、詫びろ、詫びろ～」ほどではありませんが、パワハラという言葉が存在しなかっただけで、今と比べるとかなり厳しい職場環境だったと記憶しています。

ご多分にもれず、最初の支店長も仕事には大変厳しい方でした。ところが、その支店長が、ある日突然、男性2人、女性2人の新入行員4人に当地一流ホテルでランチをご馳走してくれたのです。

また、別の日の夜には、男性2人は支店長社宅に招かれ、一緒にお酒も飲ませて頂きました。支店長から、ご自身の新入行員時代のお話、仕事上で気を付けてきた事や、こうしておけば良かったという後悔の話など、いろいろなお話を聞かせて頂きました。このようなお話を支店長から直接聞いたことは、どんな研修よりも記憶に残りましたし、その先の社会人生活に大きく



役立ちました。おそらく、支店長は新入行員の不安さを察して、お気遣いをいただいたものと理解しましたが、それと同時に、いつの日か、自分が支店長になることがあったら、同じことをしてあげたいと、30年間ずっと頭の片隅に思い続けてきました。そして今年、初めて支店長になることができた私は、実は、夏場にここダイヤモンドホールで、鈴木支配人のお力もお借りして、新入行員4人と、又、日にちを変えて2年目の行員4人と、そちらの中庭で一緒に飲みながら話す機会を作ることが出来ました。

今の若い行員がどう感じたのか実際のところは分かりませんが、約30年間思い続けた夢の一つを実現することが出来て、一つ肩の荷が下りた気がしました。また、その支店長は数年前にお亡くなりになりましたが、改めて感謝の気持ちで一杯になりました。

その後、私は日立支店やつくばの研究学園都市支店などの支店と、営業統括部や東京事務所、秘書室といった本部の部署をいくつか経験させていただきました。また、途中一度だけ、外部出向する機会もいただきました。具体的には、平成24年7月から茨城県経営者協会の事務局に、2年間出向したのです。

私が出向する前まで、経営者協会の会長は、当ロータリークラブの名誉会員でもあります、関彰商事の関会長様が長年務められていました。そして、関会長の後を、当時弊行会長だった鬼澤が引き継ぐこととなり、私が事務局に出向することとなった次第です。

ということで最後の3つ目は、「茨城県経営者協会への出向時代」のお話です。

これには具体的なエピソードはないのですが、部下の指導や育成方法を学ぶことが出来たという点で、大変貴重な経験となったという話です。

まず、初めて銀行ではない職場に出勤したわけですが、しばらくの間は完全アウェイな感じでした。経営者協会での私の役職は、専務理事、事務局長の下の「総務企画担当部長」という、“ナンバー3”のポジションでした。事務局全体でも15名くらいの小さな職場でしたが、私より年下の人数が多い状況に最初は戸惑いました。

私は当時、40過ぎで、銀行ではまだ管理職

ではなかったもので、職場の同僚とは先輩・後輩の関係でしたが、銀行も今より上下関係が厳しかったですから、私の後輩への指導も今思えば随分厳しかったように思います。

しかし、経営者協会では、私一人がよそ者です。銀行と同じ指導のやり方というわけにはいきませんし、私の時代と違って、今の若い人たちには精神論だけでは通用しません。「なぜこれをやらなければならないのか」など、「動機付け」が大切だと言われています。そこで、私は、部下の指導にあたっては、とにかく丁寧に説明をすること、を心がけました。一方で、時には正さなければならないこともありましたので、そんな時は、冷静に話しながらも厳しい内容を言うこともありました。それでも、丁寧に説明すれば、職員の皆さんは全員理解してついてきてくれました。

2年間の出向期間が過ぎ、銀行に戻る際に、若い職員達から、「銀行から来た人なので最初は信用していませんでしたが、篠原さんともっと仕事があったかったです」と言われた時は、銀行では経験したことのない喜び、充実感、達成感がありました。2年間の出向経験を経て、私は初めて管理職となって銀行に戻る事が出来ましたが、出向したおかげで、銀行に戻ってからの私の部下や後輩たちへの接し方や育成方法は大きく変わりました。

支店長になった今、怒って業績が必ず上がるのであれば私もそうするかもしれませんが、怒るだけでは、例え業績が上がったとしても、組織は強くない事を経営者協会への出向で教えてもらいましたので、今では声を荒げて怒ることはありません。もちろん、ガマンすることもゼロではありませんが、さほどガマンすることなく、怒ることそのものが減ったといえますか、本質的なことを言葉で丁寧に説明することが普通になりました。

怒らないどころか、銀行には、職場内の人へ感謝やお礼を書いて伝える「サンクスカード」というものがあるのですが、下館支店に赴任して開口一番、「下館支店に感謝する、褒める文化を定着させる」と宣言してしまいました。

機会あるごとに行員にサンクスカードを渡して感謝の気持ちを伝えたり、褒めることにして



います。

これは、これからも、私一人でもやり続けようと思っていますが、このようなことを考えるようになったこと自体が、経営者協会への外向の財産だと今も感謝しています。

最後に、弊行の経営理念は「健全、協創、地域とともに」でございます。これは、平成11年に頭取に就任した澁谷勲が、第7次中期経営計画のスタートにあたり制定したものです。私はこの経営理念が大好きです。

そして、下館ロータリークラブで初めてロータリアンとなった私は今、ロータリーの精神にもどこか通じるものを感じています。ロータリアンとしては、まだひよっ子ではありますが、皆様方に今後より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げて、私の卓話をさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

スマイルBOX 鈴木健一副委員長

▶**神山 芳子さん** 師走に入りました。2020年もめの月となりました。今日も宜しくお願い致します。

▶**宮田 憲一さん** 篠原さんの卓話楽しみにしておりました。宜しくお願い致します。

▶**岩崎 晴男さん** 潮田年度が動き出しました。皆さんで支えていきましょう。

篠原会員卓話を祝して！！

本日は、法人会主催の税務研修会の為、中座致します。

▶**潮田 武彦さん** 篠原会員の卓話を楽しみに参りました。本日の卓話宜しく申し上げます。

▶**永井 啓一さん** 篠原さん、卓話楽しみにしておりました。宜しく申し上げます。

▶**永盛 武さん** お陰様でガバナー公式訪問同伴完了しました。

▶**関谷 徹さん** 篠原会員の卓話、楽しみにしています。今月もニューモラルを配布させ

ていただきます。

▶**中里 泰久さん** 篠原さん、本日は卓話ご苦勞様です。

▶**百目鬼博行さん** 篠原さんの卓話を記念して。

▶**新井 利平さん** 篠原様、卓話ご苦勞様です。

▶**佐藤 昭さん** 篠原崇邦さん、卓話宜しくお願いします。

▶**中丸 健さん** 篠原さん、卓話宜しくお願いします。

▶**薄井 章一さん** 篠原会員、卓話宜しくお願いします。

▶**葉 章二さん** 篠原会員、卓話楽しみにしております。宜しくお願い致します。

▶**篠原 崇邦さん** 本日、新入会員卓話をさせていただきます。人前で話すのは大の苦手ですが宜しくお願い致します。

▶**根岸 千聡さん** 篠原崇邦さんの新入会員卓話、楽しみにしています。

▶**鈴木 健一さん** 篠原会員、卓話宜しくお願いします。楽しみです。

本日の合計 24,000円 累計 408,000円

出席報告 鈴木健一副委員長

会員数	出席数	欠席数	病欠	免除
28	22	1	1	4

■メイクアップ(敬称略)

11月23日 結城RC 森のフェスティバル
神山芳子

11月29日 MY ROTARY セミナー 宮田憲一

12月 1日 しもだて紫水RC ガバナー公式訪問
永盛 武・潮田武彦

12月 1日 下館さくらロータリー衛星クラブ例会
宮田憲一

12月 2日 zoom出席 正根知俊行



ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理規準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理想を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。